

北九州市の食を取り巻く背景

① 世帯構造

○高齢化率は20政令市中1番高く、その約半数が後期高齢者
 ○核家族が減少し、単身世帯が増加している。
 ○未婚率の増加（平成27年度⇒令和2年度2.3%増加）

○女性の社会進出が増加、共働き世代が多い。
 25～44歳の女性就業率
 平成27年70% → 令和2年75.5%
 【出所】第4次北九州市男女共同参画基本計画令和3年度実施状況報告書より

人口	931,462人
0～14歳	112,218人
15～64歳	527,885人
65歳以上	291,320人（高齢化率31.3%）
75歳以上	154,655人（52.6%）
世帯数	436,245世帯
高齢者のいる世帯	183,555世帯
高齢者のみの世帯	119,590世帯（65.2%）
単身世帯	177,958世帯
1世帯あたりの世帯員数	2.09人※全国：2.21人

【出所】人口：住民基本台帳（令和4年3月末現在）
 世帯数：世帯員数：令和2年国勢調査

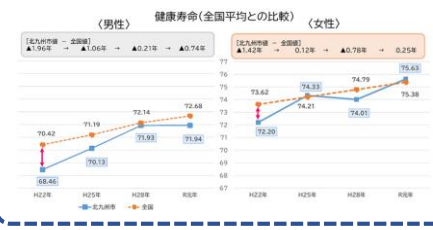
③ 健康寿命の延伸に関する状況 健康寿命と平均寿命

○平均寿命

	北九州市	全国	全国との差
男	80.4歳	80.8歳	△0.4歳
女	87.1歳	87.0歳	0.1歳

○健康寿命

	北九州市	全国	全国との差
男	71.94歳	72.22歳	△0.28歳
女	75.63歳	75.38歳	0.25歳



④ 健康寿命の延伸に関する状況 死亡と重症化した疾患の原疾患

主要な死因とその割合

総数 11,256人

- 悪性新生物<腫瘍>, 29.6%
- その他, 29.7%
- 心血管疾患(高血圧性除く), 11.5%
- 脳血管疾患, 7.0%
- 老衰, 6.1%
- 肺炎, 6.2%
- 腎不全, 1.8%
- 不慮の事故, 2.9%
- 血管性及び詳細不明の認知症, 1.8%
- アルツハイマー病, 1.8%
- 大動脈瘤及び解離, 1.6%

○脳血管疾患・心血管疾患を起こした人の約8割が危険因子である高血圧、約4割が糖尿病を患っている。

○令和2年度医療費の地域差指数（一人当たり年齢調整医療費）
 国民健康保険：政令市第4位
 後期高齢者保険：政令市第2位
 【出所】厚生労働省医療費の地域差分析

○介護認定率（令和元年度）
 一号被保険者：23.6%（国19.6%）
 二号被保険者：0.4%（国0.4%）
 【出所】北九州市第二期保健事業実施計画中間評価

② 社会情勢とデジタル化

○2020年1月からの新型コロナウイルス感染症拡大による
 ・会食制限 ・黙食推奨
 ・自宅調理、宅配の利用、持ち帰りの弁当・惣菜の利用の増加
 ※緊急事態宣言2020年4月発令（第1回）
 ※2023年5月13日より感染症法上2類から5類へ移行

○2022年2月からのロシアのウクライナ侵襲やそれに伴う世界経済の混乱による燃料高騰や食料価格の上昇、為替変動
 ・消費者物価指数の上昇 令和5年4月食料111.8（令和2年4月を100とした場合）
 ・食料品の値上げ2022年内累計2万店超（再値上げ含む）
 ・飲食業の約8割が売り上げ低下（令和4年度北九州市中小企業実態調査）

○鳥インフルエンザの世界的流行（2022冬～）
 ・採卵用鶏の不足による鶏卵価格の上昇

○令和2年4月1日より一般加工食品への栄養成分表示の義務化（食品表示法）

○個人のインターネット利用の増加
 ・利用している74.8%（H26年度65.5%）
 ・18歳～30歳代：100%、60歳代：72.9%（前回より20.2ポイント上昇）、70歳以上：28.3%（前回より13.4ポイント上昇）【出所】令和元年度北九州市情報化アンケート調査

⑤ 消費と生産に関する状況 消費の傾向

○よく購入しているもの

さしみ盛り合わせ	金額	1位
いわし	数量	2位
たらこ	数量	5位
即席めん	数量	7位

○あまり購入していないもの

まぐろ・かつお	数量	52位
乳製品	金額	50位
ケーキ	金額	51位
スナック菓子	金額	50位

※葉菜菜（37位）、根菜（23位）、他の野菜（22位）、生鮮果物（37位）

【出所】総務省家計調査二人以上の世帯・品目別都道府県庁所在地及び政令指定都市（※）ランキンプ（2020年（令和2年）～2022年（令和4年）平均）52郡市中

簡単に食べられて塩味のあるもの

⑥ 消費と生産に関する状況 就農状況

○生産者の高齢化や担い手不足による生産水準の低下が懸念されている

	平成12年	平成22年	令和2年
農家戸数	3,793戸	3,003戸	2,023戸
産産農家数	38戸	20戸	※13戸
小倉牛生産頭数	117頭	118頭	55頭
漁業経営体数	680	548	※419

【出所】北九州市農林水産業振興計画 ※は令和元年度

主な市内産品 【出所】北九州市農林水産業振興計画 ※は令和元年度

- キャベツ、トマト、すいか、しゅんぎく、アロココリ、ほうれんそう など
- 黒毛和牛（小倉牛）
- タイ、ブリ、ヒラメ、ズズキ、カサゴ、アヒ、サザエ、タコ、コイカ、ガザミ、カキ など

■本市学校給食における地産産物の使用割合

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	国目標(R2年度)
品目別ベース	39.0%	42.1%	42.5%	35.7%	30%以上
重量ベース	19.8%	18.7%	20.4%	19.8%	—

※市内産畜産物使用 R2:17/40品目、R3:15/42品目
 ※国目標：国第3次食育推進基本計画目標
 【出所】公益財団法人北九州市学校給食協会外部団体ミッション遂行評価より

⑧ 食品ロスの現状

○家庭ごみの約2割、生ごみの約4割を食品ロスが占めている
 ※食品ロス削減推進計画目標「市民1人1日あたりの家庭ごみ量」420g以下（令和12年度）

本市の食品ロスの発生量

家庭ごみ	33,937	30,967	26,452
食品ロス量	157,118	156,937	157,452

1人1日あたり468g

【出所】第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画資料編

⑦ 消費と生産に関する状況 食品へのアクセス

○食品販売店が多い。24時間営業や、22時頃まで営業している店舗も多く、食品入手はしやすい
 ※総合スーパー数約100店舗（健康推進課調べ）

○店舗が運営するお買い物バスの運行やインターネット注文、購入品配達など有

○地元農協や漁協の運営する直売所もあり、新鮮な地元食材の入手が可能
 ※直売所市内18か所（地元いちばんホームページより）

	総数	門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区
飲食料品小売業	2,405	298	613	355	231	230	503	175
各種食料品小売業	127	25	26	25	9	8	28	6
野菜・果実小売業	238	39	57	26	24	32	39	21
食肉小売業	141	14	37	17	22	8	29	14
鮮魚小売業	191	30	49	29	16	21	32	14
酒小売業	258	27	63	30	26	28	63	21
菓子・パン小売業	413	45	106	66	41	30	98	27
その他の飲食料品小売業	1,037	118	275	162	93	103	214	72

【出所】商業統計調査

⑨ 食の安全・安心 食中毒の発生状況等

○令和4年度はアニサキスによる食中毒が多くなっている。

食中毒発生件数及び患者数の推移

発生件数	7	13	14	6	4	21
患者数	32	229	78	18	135	200

原因別発生数

	令和4年	令和3年	令和2年
ノロウイルス	1		1
カンピロバクター	5		1
ウェルシュ菌		1	1
サルモネラ属	1		
ブドウ球菌	1		
クドア・セブテンブククター	1		1
アニサキス	11	1	
テトラミン	1	1	
テトロドトキシン		1	1
合計件数	21	4	5

【出所】北九州市HP北九州市内の食中毒発生状況より